

1人1台端末を活用した教育の充実

中核校	標茶町立標茶小学校	指定校	標茶町立磯分内小学校、標茶町立沼幌小学校 標茶町立標茶中学校
-----	-----------	-----	-----------------------------------

実践前の状況

- ・授業において、学級間で1人1台端末の活用程度に差があった。
- ・家庭学習において、1人1台端末を効果的に活用できていなかった。

実践の概要

- 1人1台端末を活用した授業改善の取組及び校内研修の充実
- ・年度初めに、教師及び児童が自由に端末や実物投影機、大型ディスプレイ等を活用できるよう、校内のICT環境を整備した。
 - ・授業における端末の効果的な活用について、複数回の研修を行うとともに、校内研修において「1人1授業公開」に係る端末の活用場面を位置付け、その効果について協議を行った。
 - ・資質・能力の育成に向けて端末を効果的に活用した全教員の実践をクラウド上の掲示板にアップロードし共有化を図ることで、自身の実践に還元できるようにした。



【活用を共有するクラウド上の掲示板】

- 1人1台端末の持ち帰りを活用した家庭学習の取組の充実
- ・「端末の持ち帰りの目的」「端末の持ち帰りによる家庭学習の取組例」等を示した児童及び保護者向けのリーフレットを作成・配付し、高学年における端末の持ち帰りを試行実施した。
 - ・児童が主体的に取り組むことを目的とした端末を用いた効果的な家庭学習の取組例を教師間で共有することで、学年に応じた具体的な取組について見通しをもつとともに、児童・保護者アンケートの結果を踏まえて運用規定を見直し、全学年の端末の持ち帰りを本格実施した。
 - ・MEXCBTの活用を通して「ほっかいどうチャレンジテスト」を配信し、家庭学習で取り寄せた。
 - ・中核校の家庭学習に係る取組を指定校に周知したことにより、指定校においても、児童が主体的に取り組む家庭学習を目的とした効果的な端末の活用が始まった。



【リーフレットの一部】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・教員が自身の授業実践と向き合いながら授業改善に取り組むことを目的としたICT環境の整備を目指し、道教委が示すICT活用の3つのステップを具体化した「5つのステップ」を示した。
- ・教員が自身の授業改善に係る資質能力の向上に向けて活用できるよう、参考図書や教材作成、対話等に使用することができる研修ルーム(ワーキングスペース)を設置した。

〔専科教員の取組〕

- ・校長の経営方針と教員の1人1台端末等のICTの活用状況の理解に努めるとともに、環境整備や各種取組の推進に係るスケジュールを検討・立案した。
- ・教務主任、研修部長と連携して取組の実現に必要な環境整備を行いながら、専科教員が収集した授業改善に係る先進事例等を発信したり、1人1台端末を活用した専科教員の授業を中核校及び指定校の教員に公開したりした。

成果()と今後の課題()

ICT活用を促す環境を整備し、積極的な授業実践や情報交流をしたことにより、教員の指導力等が向上し、全学級の1人1台端末を活用した授業改善を図ることができた。

〔本事業に係る評価(指定地域全体の教師評価)の「ICTを効果的に活用することにより、わかりやすい授業をおこなうことができるなど指導方法の改善につながっている」の項目において、85%の肯定的評価となった。〕

学校と児童、保護者が共通理解を図りながら、端末の持ち帰りを段階的に実施したことにより端末を活用した家庭学習の取組の充実を図ることができた。

〔本事業に係る評価(指定地域全体の教師評価)の「授業以外の教育活動でも、端末の積極的活用が進められている」の項目において、88%の肯定的評価となった。〕

指定校間における各種取組の進捗状況に差が見られたことから、指定地域全体で育成を目指す児童生徒の姿の実現に向けて、共通した取組を推進する必要がある。